

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。 (2) 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。 (3) 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇第3学年	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・家庭との連携では「本校からの連絡文書は、保護者に届けている」80.8%→81.0%で増加しているが、「学校からの連絡文書等は、保護者(地域)に確実に届けられている」73.5%→69.2%となっており、生徒と保護者の認識にずれがある。連絡文書等確実に保護者に渡るよう徹底する必要がある。「家庭で学校に関する話をしている」76.7%→70.5%に減少している。コミュニケーションが不足している家庭もあり、進路目標達成に向けた取り組みをしっかりとしていく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇進路意識を高め、進路実現に向け意欲的に取り組む。 ◇生徒一人一人にあった自立を目指す。 ◇社会で通用するルールやマナーを身につける。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年団の連携 ・進路指導部との連携指導 ・生徒指導部(教育相談含む)との連携指導 ・学科・コース・系列との連携指導	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 就職・進学ガイダンス (2) 就職・進学希望者面接練習 (3) 卒業発表会に向けての取り組み (4) 一般常識テスト (5) 朝読書	(1) 就職・進学希望者全員の進路決定 (2) 面接評価表 (3) 学校行事での生徒の様子 (4) 常識テスト・定期考査・成績・出欠状況 (5) 生徒の意識・行動	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・学年集会の実施 ・身なり指導の実施 ・一般常識テストの実施 ・朝読書(毎日)の実施 ・紫翠祭への取り組み ・卒業発表会への準備 ・学年通信の発行	①生徒の進路を実現するために学年団と進路指導部が連携を取りながら指導できたか。 ②社会人としてのルールやマナーを身に付けさせたか。 ③最終学年として卒業に向け生徒の意識向上が図れているか。	A (B) C D A B (C) D A B (C) D
11 成果・課題	○就職希望者や進学希望者に対して、進路指導部、学科やコース・系列と連携をとり、生徒個々の持ち味を生かした進路実現に取り組ませることができた。 ▲直前になって就職希望から進学希望に変更したりその逆があったりと進路希望が定まらない生徒が数名いた。進路についての働きかけが不十分であった。 ▲1年間通して遅刻が減らなかった。対策が不十分であった。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・就職試験や進学試験で不合格となった生徒に対する指導を進路指導部と連携し進路決定につなげていき、全員が進路を決定することが必要である。 ・3年生は遅刻の多い学年であった。対象者は限られているので、生徒の家庭状況なども踏まえて遅刻防止に努めることが必要である。 ・紫翠祭や卒業発表会での活躍の場を利用し、生徒の達成感につなげる。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

【意見・要望・評価等】 ・進学も就職も自宅からの通学、通勤希望が多く地元貢献できている。 ・進路ガイダンスは7~8割の満足度しかないため、原因をリサーチしていく必要がある。
--